

丸亀で会いましょう

自分の個性に自信を持ってほしい

公益社団法人 さぬき青年会議所(※) 理事長
香川県ファミリーハート株式会社 代表取締役
池内 麻衣さん



●公益社団法人さぬき青年会議所(以下さぬき青年会議所)初の女性理事長として

22代目の理事長の役を拝命しましたが、子どもの頃からの夢は、人に役立つ人間になること。ナイチンゲールのような人になりたい。それは、今でも同じです。

男だから女だからという意識ではなく、男性と同じようにしようと心掛けましたが、私らしく得意な分野での個性を出すようにしています。そこで、今年度は「拡充」会員の育成と、「出向」先での活動から得た内容をさぬき青年会議所内へフィードバックすることを中心に取り組んでいます。

さぬき青年会議所は、組織運営の能力を高められ

るよう、会員各員が活動を通して自己研鑽し、社会貢献している団体です。

現在会員は54名で、60%は3年未満の新人会員です。例会以外に、勉強会なども催し、会員各員を認めながら、人材育成するよう心がけています。青年会議所出身の著名人では、小泉純一郎さんなどがいらっしゃいますが、青年会議所に入る人は、青年経済人ばかりではありません。品格ある20歳から40歳までの方であれば入れます。

●さぬき青年会議所では、どのようなことを行っているか

「丸亀お城まつり」「丸亀お城村」に参加していることを知っている人はいるかもしれませんが、これだけでなく、会員それぞれが、防災や青少年育成など自分の得意な分野で様々な活動を行っています。実際、被災地へ行き、ボランティア本部を立ち上げる補助や、被災者が市や町から補助金をもらえるよ

うに、つなぐ役割をしたこともあります。さぬき青年会議所はボランティア運動をする団体であり、プライドを持って、何ができるのか、仕組みづくり、まちづくりをいつも考えています。これを今年のスローガンで表現すると「仁愛(人を慈しみ、徳を積む)」ということでしょうか。



登校中に地震に遭ったと想定して段ボールでブロック塀の倒壊をシミュレーション

●子どもたちのためにできること

会員には、建設業者も多いので、はたらくクルマが大集合するイベントを毎年開催しており、好評を得ています。その他、例会として城乾小学校で『自守防災』の授業を行いました。子どもたちしかいない状況で災害が発生した場合、自分の身をどう守るか知識・技術を学んでもらいました。

また、昨年、貧困とはどのようなものかを知るため、ナイジェリアを訪れ、実際に見てきました。しかし、スラム街の子どもたちの顔は不思議と幸せそうでした。いろいろと満たされていても、七夕の短冊に願い事も書けない日本の子どもたちのことを聞くと、幸せの在り方について考えさせられた出来事でした。

だから、子どもたちには、将来の夢を持ってもらい

たい。そのために、自分の目でいろいろなものを見てほしいです。世界にはいろいろな考え、境遇に置かれた人がいますが、そういった人の中でも自分の意見を言えるようになってほしいし、勇気を持つには、好きなことや得意なことからでいいと思います。自分の個性に自信を持ち、友人の個性も認めてほしいのです。

※さぬき青年会議所は、香川県中讃2市4町(丸亀市・善通寺市・宇多津町・多度津町・まんのう町・琴平町)を活動拠点として「明るい豊かな社会」の構築を目指し、様々な運動を展開する20歳から40歳までの青年経済人で構成している団体

編集後記

今号は、ワーク・ライフ・バランス推進特集として、職場環境改善に取り組んだ市内事業所の実例などを紹介しました。大切なのは、従業員が働くことと意欲を持ち続ける風土づくり。「制度はあっても風土なし」という課題を克服し、市内事業所すべてで真のワーク・ライフ・バランスが実現できるよう、情報発信し続けます。仕事はチームプレーなので「お互い様精神」が大事ですね。(はる)

介護離職者数、年間約10万人

年間10万人、丸亀市の人口と同じくらいの人が、毎年介護等を理由に離職しているという統計があります。

これまでは、介護離職の大半が女性でしたが、今後は男性も介護離職を選択する必要性が出てくるのです。

介護は育児と異なり、「いつまで」ということが想定できないものです。一旦離職して、再就職となると、大変な困難が想像できます。また、長年培った技

育児について見てみると、6歳未満の子どもの持つ夫婦の家事・育児関連における夫婦の合計時間では、育児時間が他の先進国と比較して際立って長く、また、夫婦間のバランスが取れていないという特徴があります。

統計資料によると、妻の就業状態に関わらず、約7割の夫が育児に関わっていないとのこと。そこで、男性の育児休業の取得率を見てみます。ノルウェーやスウェーデンでは、父親の育児休業取得率が80%を超えるというデータがありますが、日本は最新の数値でも6.16%という結果です(グラフ参照)。国連児童基金(ユニセフ)の報告書によると、「日本は、育児休業の制度は整備されており1位の評価だが、実際に育児休業を取得する父親は非常に少ない」と指摘しており、制度の問題でなく、風土に何らかの問題があると考えられます。

より良く生活するために より良く働くこと

今年4月1日より、働き方改革関連法の一部が施行され「働き方改革」という言葉を耳にしたことがある人は、かなり増えてきているのではないのでしょうか。



この「働き方改革」を推進することによって、国民一人一人がやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択できる社会の実現を目指しています。

しかし、現在の社会では

- ・安定した仕事に就けない
- ・仕事に追われ、心身の疲労に苦しむ
- ・仕事と子育てや介護との両立に悩む

などワーク・ライフ・バランスで問題を抱える人が多く見られます。

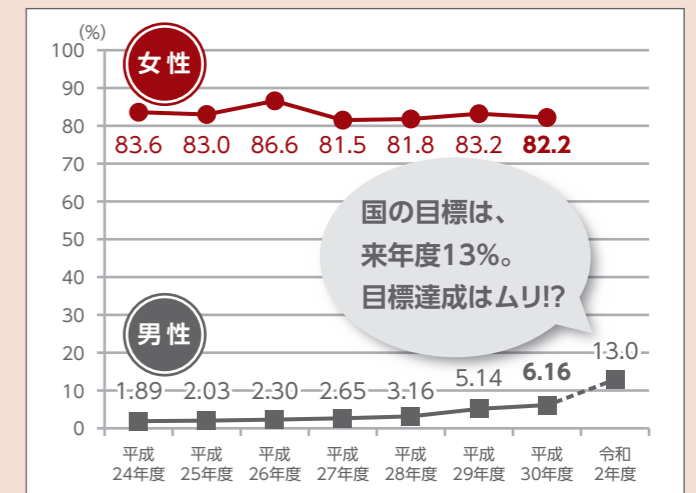


このような課題を解決するために、様々な職場において「働き方改革」に取り組んでいる状況です。中でも、介護と育児に関する問題は、社会の大きな課題ですが、個人の課題と取られがちで、取り組みに温度差があります。

術や、蓄えた知識を離職することによって失うのは、離職する個人の問題だけでなく、職場にとっても大きな損失となります。

日本の男性育児休業取得率は6.16%

育児休業取得率の推移



厚生労働省 平成30年度 雇用均等基本調査(速報版)より作成